



(参考仮訳)

プレスリリース No.11/259
即時解禁
2011年6月28日

国際通貨基金 (IMF)
米国・ワシントン DC

IMF 理事会、クリスティーヌ・ラガルド氏を次期専務理事に選出

国際通貨基金 (IMF) の理事会は本日、クリスティーヌ・ラガルド氏を、IMF 専務理事兼理事会議長に選出した。ドミニク・ストロスカール氏の後任のラガルド氏は、1944 年の IMF 設立以来初の女性のトップとして、2011 年 7 月 5 日から 5 年間の任期を務める。

2011 年 5 月 20 日に、IMF の 187 加盟国を代表する 24 名の理事で構成される理事会が開始した選出プロセス (プレスリリース No. 11/191 を参照) は、ラガルド氏の指名をもって終了した。理事会は承認した手順に則り、アグスティン・カルステンズ及びラガルド両候補との面談に合意、各候補は 2011 年 6 月 20 日から 23 日の間に、それぞれ理事及び理事会と面談しあらゆる情報を提示した。

理事会は、両候補が十全に次期専務理事としての資格を有するとの認識を示す一方、合意に基づく選出を目標としていた。各候補者のこれまでの実績及び経歴に照らし、両候補の資質について協議した結果、次期専務理事にラガルド氏を合意に基づき選出した。理事会は、ラガルド氏に、国際通貨基金に対する次期専務理事としての効果的な指導力の発揮を期待する。

専務理事は、IMF スタッフの長及び理事会議長としての責務を担う。3 人の副専務理事の補佐の下、140 を越える国々から採用された約 2,700 人の職員を通し、187 加盟国に貢献するべく IMF の業務を行う。

ラガルド氏はフランス国籍の 55 歳。2007 年 6 月よりフランスの財務大臣を務める。同職以前は、同国の対外貿易担当相を 2 年間務めた。また、ベーカー&マッケンジー国際法律事務所のパートナー並びに反トラスト法、労働法弁護士として多方面で活躍。1999 年 10 月には同事務所のチェアマンに就任。フランス内閣に初の入閣を果たす 2005 年 6 月まで同事務所のトップを務めた。ラガルド氏は、パリ政治学院 (IEP) 及びパリ第 10 大学ロースクールにて学位を取得。また、パリ第 10 大学では

1981年にベーカー&マッケンジー事務所に参加する以前、講義を行った経験も有する。

専務理事の選出プロセスについての詳細は
<http://www.imf.org/external/np/exr/facts/mdsp.htm>を参照のこと。